

鹿児島県出水平野における ツル類の基礎調査 第2報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査 (昭和60年度)

千羽 晋示*・安部 直哉**

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 2. The Inquiry about the Distribution of Cranes in western Japan (1)

Shinji Chiba* and Naoya Abe**

序

このアンケート調査は、昭和60年度より5年間の予定で始まった「鹿児島県に渡来するツル類の調査 (公式の研究課題名その他については自然教育園報告・第17号27頁, 1986に記述されている) の一環として行われた。初年度の第1回アンケート調査の目標は、(1) 主として鹿児島県出水地方に渡来し越冬しているツル類に関する一般情報を得ることと、(2) このアンケート調査を通して、関係諸県の鳥類観察者ならびに研究者に本調査への協力を依頼することであった。

このアンケートに対する回答の一部はすでに報告した (千羽・安部, 1986) が、この報文では、すでに報告済みの結果も含めて、昭和60年秋から昭和61年春にかけての越冬期 (以下, 1985—86年期と記した) に関する情報を主としてまとめた。

アンケート調査に協力していただいた日本鳥類保護連盟, 長崎県生物学会, 回答をくださった両会々員の方々に礼申し上げます。

調査方法

アンケート調査用紙の内容

第1回アンケート調査の内容は次頁の通りである。

アンケート調査用紙の発送先と発送数

鹿児島県出水地方と山口県熊毛地方で越冬するツル類に関する情報の蒐集を主目的として、中国地方、四国、九州、沖縄の各県に在住する日本鳥類保護連盟会員と長崎県生物学会々員の方々に調査用紙を発送し、

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum.

** 同上 (非常勤), Ibid.

国際保護鳥ナベヅル・マナヅルの保護, 管理手法に関する研究調査票

国立科学博物館附属自然教育園

ツル類についての調査票 (昭和60年度)

記入者のお名前 (歳)

記入者のご住所

1. 過去の記録について (昭和60年8月までの記録)

(1) あなたのお住いの近くで, ツルを見たことがありますか。

(イ) ある (ロ) ない

(2) 見たことのある方も, ない方も, どのあたりの場所か知りたいので, 中心となる住所をなるべく詳しく教えてください。

県 市・郡 町・村 丁目 番地 (字名)

(3) 見たことのある方は, つぎのことについて教えてください。

ツルの種類 (ナベヅル・マナヅル・その他・わからない)

ツルを見た時期 昭和・大正 年頃 (くわしくわかれば 年 月 日 時頃)

見たツルの数 羽ぐらい: (イ) 地上におりていた (ロ) 飛んでいた

(4) あなたがお住みの場所以外で見たことのある人は, (3)と同じようにお教えてください。

(5) 見たことのある方は, ツルがどんな場所にいたのか。例えば水田・沼地・畑・川など, その場所の状況についてお教えてください。

2. 現在の記録について (昭和60年9月以後の記録)

(1) あなたのお住いの近くで, 昨年の9月から今日まで, ツルを見たことがありますか。

(イ) ある (ロ) ない

(2) 見たことのある方は, つぎのことについて教えてください。

ツルの種類 (ナベヅル・マナヅル・その他のツル・わからない)

ツルを見た日 ① 昭和 年 月 日 時頃

②

ツルを見た場所 ① 県 市・郡 町・村 丁目 番村 (字名)

②

見たツルの数 ① 羽 ② 羽

ツルはどんな場所にいましたか。

(イ) 地上におりていた (水田・沼・畑・山の沢)

(ロ) 飛んでいた……飛んでいった方向, ××町から○○町方向へなど

()

総計 831 名に調査を依頼した。

特に長崎県生物学会々員の方々には調査を依頼したのは、ツル類の渡りに関する情報を集めるためであった。

アンケート調査用紙は、返信用の封筒と切手を付けて、1986年2月に郵送した。調査用紙の返信到着は1986年7月上旬で終了した。なお、その後、一部の返信については、再回答をお願いした。

調査結果

調査用紙の回収結果

11歳の小学生から89歳の方まで、合計 529 名の回答があった（調査用紙の回収率は64%）。回答者数を県別に示すと表1の通りである。

表1. 県別回答者数

鳥 取 県	7	鳥 根 県	14
岡 山 県	14	広 島 県	37
山 口 県	19	香 川 県	12
徳 島 県	12	愛 媛 県	15
高 知 県	22	福 岡 県	80
大 分 県	18	宮 崎 県	19
佐 賀 県	14	熊 本 県	22
長 崎 県	191	鹿 児 島 県	20
沖 縄 県	12	そ の 他	1

注1. アンケート調査依頼者数831名、回答者数529名。

注2. 再回答依頼者数10名、回答者数9名。

回答のまとめ方について

- この第1回アンケート調査では、前掲の調査用紙の内容に示されているように、ツル類の記録を（1）「過去の記録」（昭和60年8月までの記録——調査用紙の質問第1項）と（2）「現在の記録」（昭和60年9月以後の記録——質問第2項）に分けて回答を求めた。本報では、質問第2項の1985—86期に相当する回答をまとめた。

質問第1項の「過去の記録」については、継続して実施中のアンケート調査の回答も合わせて、各県別のツル類の記録を別報として後に発表する予定である。

- このアンケート調査の質問第1項、第2項とも、次に（1）として「回答者の居住地およびその付近の地域におけるツル類の記録の有無」を問い合わせた。（1）の回答としての「記録なし」という回答は、もちろん重要な情報である。しかし本報では、質問第2項の（1）、（2）の「記録あり」と質問第1項の（4）に相当する質問第2項の回答（すなわち、回答者の居住地およびその付近ではない地域における観察結果）中の「記録あり」についての情報を整理し、まとめた。ただし、ツル類の越冬地である鹿児島県出水地方と山口県熊毛地方における記録は除いた。

ツル類の記録

得られた記録を渡来期、越冬期、渡去期の記録として大まかに分けることはできる。しかし別報に詳述するように、鹿児島県出水地方の越冬地では1985年10月17日に最初のナベヅルが渡来し、以後、越冬羽数は1

月下旬まで増加し、1986年2月10日に最初のマナヅルが渡去を始めている。この状況や渡去期に関する長崎県での記録が多いことなどを考慮して、各県別に記録をまとめ、一部の記録には本報の著者の注記を付けた。

鳥 取 県

マナヅル

- (1) 1986年3月13日。幼鳥1羽。米子市彦名，彦名干拓地水田跡。

島 根 県

マナヅル

- (1) 1985年11月中旬。2羽（幼成不詳）。出雲市神西，神西湖南側の水田跡。
- (2) 1986年2月26日。成鳥3羽。宍道湖西岸の斐伊川河口付近の水田跡（出雲市および平田市）。

クロヅル

- (1) 1985年11月23日。幼鳥1羽。出雲市神西沖町，神西湖畔の水田跡。

岡 山 県

ナベヅル

- (1) 1986年1月25，27日。2月23日。成鳥2羽と幼鳥1羽の1群。岡山市光津，政津，君津，米津百間川流域の水田跡。

山 口 県

マナヅル

- (1) 1985年11月21日。成鳥2羽。厚狭市山陽町渡場，後瀧干拓地。数日滞在。
- (2) 1985年12月19日より1986年1月2日（飛去）。成鳥2羽，亜成鳥1羽，幼鳥1羽，計4羽。吉敷郡阿知須干拓地。

注記：阿知須干拓地を去ったこの4羽1群と思われるマナヅルは、以後、他の場所で記録されていない。

ナベヅル

- (1) 1985年11月13日，14時頃。成鳥11羽と幼鳥3羽の1群。光市植松の水田跡。

香 川 県

マナヅル

- (1) 1986年3月8—17日。幼鳥1羽。観音寺市三豊干拓地。

愛 媛 県

マナヅル

- (1) 1985年12月より1986年2月20日頃まで，成鳥1羽。大洲市八多喜の水田跡で越冬。

ナベヅル

- (1) 1985年11月24日。2羽（幼成不詳）。伊予市本郷，水田跡。
- (2) 1985年12月14日。5羽（幼成不詳）。北宇和郡三間町，水田跡。

高 知 県

マナヅル

- (1) 1985年11月19，20日。成鳥1羽。中村市鍋島の水田跡と四万十川河川敷。

ナベヅル

- (1) 1985年11月25，28日。成鳥2羽。宿毛市福良馬路新田。

- (2) 1985年12月10日。2羽（飛行中で幼成不明）。中村市不破。
 (3) 1985年12月19日。成鳥2羽。中村市中山。

注記：このナベヅル2羽の幼成別については、ある回答者は2羽とも成鳥とし、別の回答者は成鳥1羽と亜成鳥1羽としている。いずれにしろ、この2羽のナベヅルは中村市の四万十川の下流域とその付近で越冬し、2月下旬まで同地域に生息していた。なお、このうち1羽は脚をいためていたという。

- (4) 1985年12月3日、15時。成鳥3羽、幼鳥2羽と思われる1群が、中村市森沢上空を通過。
 (5) 1986年3月6日。成鳥2羽。宿毛市新田。
 (6) 1986年3月12日。成鳥2羽。宿毛市福良。

注記：(5)、(6)の2羽は(3)にあげた2羽と同一個体と思われる。

福岡県

マナヅル

- (1) 1985年11月4日、11時頃。2羽（幼成不詳）。東区海の中道、海浜公園の湿地。
 (2) 1986年1月6日。幼鳥1羽。粕屋郡條栗町津波黒、北勢門小裏の水田跡。
 (3) 1986年1月10日、2月1日、同所に幼鳥1羽。

ナベヅル

- (1) 1985年11月12日、16時頃、約40—50羽。嘉穂郡碓井字西郷上空を南に飛行。このうち1羽（成鳥）は地上に降り、保護される。

注記：この1羽は出水の鶴監視員又野末春氏のもとに移され、11月30日にJ61の標識を付けて放鳥された。

- (2) 1985年12月、成鳥2羽と幼鳥1羽の家族が行橋市元永の農耕地に渡来。成鳥1羽は12月中にハンターに射殺されたが、残りの成鳥1羽と幼鳥1羽は1986年2月上旬まで同地で越冬した。

種名が正確に同定できない記録

- (1) 1985年11月12日、12時40分。ナベヅルと思われる14か15羽。朝倉郡朝倉町、筑後川の朝羽大橋より200m上流、中央の洲より飛び去る。
 (2) 1986年3月2日。ナベヅルと思われる4羽。福岡市東区香椎上空を北へ飛行。

大分県

マナヅル

- (1) 1985年11月2日。成鳥1羽。速見郡日出町川崎千騎の農耕地で10時30分頃より約1時間休息して飛び去る。

宮崎県

ナベヅル

- (1) 1985年11月7—12日、19日、12月10日。幼鳥1羽。延岡市片田、沖田川流域の水田跡。
 (2) 1986年2月16日。幼鳥1羽。宮崎郡佐土原町二ツ建、一瀬川右岸の河口干拓地。
 (3) 1986年3月9日。幼鳥1羽。児湯郡新宿、入江の中洲。

佐賀県

マナヅル

- (1) 1986年2月2、5日。1羽（幼鳥?）。杵島郡有明町、有明干拓地の畑地。
 (2) 1986年2月23日。4羽（幼成不詳）。伊万里市東山代町長浜干拓地。
 (3) (2)と同日、14時頃。4羽（幼成不詳）。伊万里市里の水田跡。

- (4) 1986年3月1日。成鳥3羽, 幼鳥1羽。伊万里市木須町干拓地。

熊本県

マナヅル

- (1) 1985年11月10日。幼鳥1羽。天草市河浦一町田干拓地の水田跡。
(2) 1986年1月15日, 10時。成鳥2羽, 幼鳥1羽。他にナベヅル5羽(後述)。
(3) 1986年1月18日, 14時。成鳥2羽, 幼鳥2羽。他にナベヅル7羽(後述)。
(2), (3)とも場所は(1)と同じ。
(4) 1986年1月21日。4羽(幼成不詳)。他にナベヅル5羽。天草市河浦町久留新田の湿地および水田跡。

ナベヅル

- (1) 1985年11月30日, 9時。3羽(幼成不詳)。天草市久留新田の湿地および水田跡。
(2) 1985年12月26日頃。同上地で1羽病死, 死体回収。
(3) 1986年1月15日, 10時。成鳥3羽, 幼鳥2羽。他にマナヅル3羽(前述)。
(4) 1986年1月18日, 14時。成鳥4羽, 幼鳥3羽。他にマナヅル4羽(前述)。

注記: 後の聞き取り調査によると, 天草市河浦町一町田干拓地から同市久留付近の水田跡と湿地帯で数羽のナベヅルが越冬したようである。

種名が正確に同定できない記録

- (1) 1985年11月12日, 10時頃。ナベヅルと思われる5羽。荒尾市日の出町, 日の出公園上空を北から南に飛行。

長崎県——長崎県については九州本島域, 壱岐, 対馬に分けて記録を示した。

1. 九州本島域——渡来期の記録

ナベヅル

- (1) 1985年10月20日, 18時。31羽。西彼杵郡時津町西時津上空を琴海町西海方向から諫早方向に飛行(飛行中の群なので幼成の割合は不明)。

種名が正確に同定できない記録

- (1) 1985年10月1日, 10時頃。30羽。平戸市鏡川, 中学校上空を安満岳方向(およそ南西方向)に飛行。
(2) 1985年11月上旬, 2, 3日間, 午前中。西彼杵郡三和田町為石上空を20—30羽が天草, 鹿児島方向へ飛行。
(3) 1985年11月。西彼杵郡大島町上空を50羽が佐世保方向へ飛行。
(4) 1985年11月中旬, 14—15時頃。長崎市伊良林町上空を17羽が, 伊良林町から田中, 諫早方向へ飛行。

2. 九州本島域——渡去期の記録

マナヅル・ナベヅル

- (1) 1986年2月。ナベヅル3羽(幼成不詳)。諫早市小野町, 水田跡。
(2) 1986年3月4日, 13時15分。マナヅル22羽, ナベヅル90羽。北松浦郡小佐々, 冷水岳上空を南西方向へ飛行。
(3) 1986年3月4日, 12時頃。ナベヅル26羽。長崎市稲佐山上空を飛行。

種名が正確に同定できない記録

- (1) 1986年2月16日, 11時頃。西彼杵郡野母崎, 権現山上空を約40羽が長崎方向に。

- (2) 1986年2月16日, 13時頃。西彼杵郡野母町脇岬上空を30羽が対馬方向に。
- (3) 1986年3月4日, 11時頃。西彼杵郡野母崎野母上空を約30羽が南から北へ, 野母崎から佐世保方向に。
- (4) 1986年3月4日, 12時。長崎市伊良林上空を30羽が飛行。
- (5) 1986年3月4日, 14時30分頃。北松浦郡佐々町江里上空を約50羽が江迫町方向に。
- (6) 1986年3月5日, 14時0分頃。北松浦郡佐々町木場上空を約80羽が江迫方向に。
- (7) 1986年3月6日, 11時頃。西彼杵郡野母上空を31羽が南から北に。
- (8) 1986年3月9日, 12時40分頃。北松浦郡佐々町神田上空を約40羽が吉井町方向に。
- (9) 1986年3月9日, 12時55分。佐世保市国鉄「佐世保」駅上空を80羽, 120羽, 30羽の3群が弓張岳の東側方向に。
- (10) 1986年3月10日, 14時頃。西彼杵郡香焼上空を100羽が対馬方向に。
- (11) 1986年3月12日, 14時50分頃。北松浦郡佐々町鴨川上空を約50羽が江迫方向に。
- (12) 1986年3月12日, 15時頃。北松浦郡田平町上空を200羽が飛行。
- (13) 1986年3月16日, 15時頃。西彼杵郡大瀬町小松郷上空をツル類が飛行。
- (14) 1986年3月19日, 12時。西彼杵郡外海町西出津, 黒崎中学校上空を4羽が北に。
- (15) 1986年3月22日, 14時0分頃。西彼杵郡高島上空を150羽以上が北に。

以下の記録は, アンケート回答者が送付くださった新聞, 会誌の記事切抜による記録である。

- (16) 1986年2年17日。マナヅル3羽(成鳥2羽, 幼鳥1羽)が諫早市小野海岸に休息。
- (17) 1986年2月26日。西彼杵郡野母崎上空を約40羽が北方向に。
- (18) 1986年2月26日。平戸市津吉上空を約35羽が北西方向に。
- (19) 1986年3月4日, 佐世保市, 佐世保港入り口の俵ヶ浦山頂。13時37分から約80—100羽, 13時53分に26羽, 14時15分に74羽が飛来し, いずれも九十九島の4~500m上空を通過して, 数分後に平戸・北松浦郡方向の山並に消える。

3. 壱岐における記録 対島と壱岐における記録の多くは, 上空を通過中のもので, 種名は不詳である。

- (1) 1985年10月21日, 18時頃。石田町池田上空を約100羽が箱崎方向から初山方向へ高度数100mで通過。
- (2) 1985年11月4日, 12時過ぎ。芦辺町国分東触上空を10数羽が通過。
- (3) 1986年3月4日, 16時4分。郷ノ浦町片原, 壱岐高校上空を60羽(マナヅル?)が北に。
- (4) 1986年3月4日, 18時。郷の浦町初山坪触上空を30羽が西から東に。
- (5) 1986年3月5日, 12時。芦辺郡深江触の水田に30羽(種構成不詳)が降りていた。
- (6) 1986年3月5日, 12時。芦辺郡中野郷, 瀉水, 丸熊上空を26羽が通過。
- (7) 1986年3月13日, 13時10分。郷の浦町長峰本村触上空に21羽が南方から飛来し, 高度100mで旋回して東方に。
- (8) 1986年3月30日, 14時22分。(7)と同所の上空を約120羽が南から北に。

4. 対馬における記録

- (1) 1986年2月25日, 17時18分頃。巖原町内山上空を約130羽が通過し北に。
- (2) 1986年2月25日, 18時30分頃。(1)のツルと思われる群が上県町佐護の水田跡に舞い降りる(マナヅル, 羽数は不明)。
1986年2月26日, 11時過ぎ, 韓国の方向に出発。

- (3) 1986年3月4日, 上県町佐護に夜おそくなってツルの群が舞い降りる。
1986年3月5日, このツルはナベヅル47羽, マナヅル4羽と判明。同日, 12時頃までに韓国方向に飛び立つ。
- (4) 1986年3月6日, 8時頃。上県町舟志の水田にナベヅル6羽が降りている。
- (5) 1986年3月8日, 18時頃。上県郡鹿見上空に100羽。
- (6) 1986年3月8日, 18時頃。同所の上空に20羽。
- (7) 1986年3月9日, 13時8分—14時0分まで。厳原町上空を約400—500羽が飛行。
- (8) 1986年3月9日, 14時25分に約60羽, 15時25分に11羽が厳原町上空を北に。
- (9) 1986年3月9日, 13時30分。約60羽が厳原上空を飛行。
- (10) 1986年3月12日, 18時35分。上県町佐護港上空にマナヅルとナベヅル合計150羽以上が飛来。
- (11) 1986年3月14日, 9時45分。上県町佐護上空を約20羽が韓国方向に。

鹿 児 島

マ ナ ヅ ル

- (1) 1986年1月初。マナヅル8羽。日置郡金峰町田布施, 塩屋堀の農耕地に飛来。
注記: 1986年1月30日には, この8羽は成鳥6羽, 幼鳥2羽の一群で活動していた。その後の滞在状態は調査中である。
- (2) 1986年1月27日夕刻。マナヅル4羽。国分寺広瀬の塩田跡に飛来。
注記: この4羽は成鳥2羽, 幼鳥2羽の家族群である。飛来以後の滞在状態については調査中。

ナ ベ ヅ ル

- (1) 1986年1月初旬, 2羽。後に8羽となり, 加世田市小湊干拓—相星川—吹上浜などで観察される。
- (2) 1986年2月20日。20羽。出水郡長島町指江上空を北西に飛んで行く。

その他の地方における記録

このアンケート調査の対象県以外の地域における1985—86期のツル類の渡来記録を新聞記事と現在実施中の第2回アンケート調査などから集めた。

- (1) 1985年11月4日。マナヅル1羽(幼成不詳)。福井県小浜市北川。
- (2) 1986年1月2日。マナヅル1羽(幼成不詳)。福井県三方郡美浜町久々子, 三方湖畔。
- (3) 1986年3月15—21日。マナヅル1羽。和歌山県日高郡美浜町和田不毛の水田跡。このマナヅルはJ16の標識を付けた個体であった。
注記: この個体は, 山階鳥類研究所標識室によって, 1984年1月24日に鹿児島県出水地方の越冬地で標識された。1983年生まれの子体である。
- (4) 1986年3月7—11日。マナヅル成鳥1羽。新潟県西蒲原郡巻町の海岸(角海浜)。
- (5) 1985年11月21—26日。ナベヅル2羽(幼成不詳)。和歌山県日高郡美浜町和田不毛の水田跡。

結 び

今回の第1回アンケート調査に多くの方が回答をくださり, 本報で扱わなかった過去の記録も含めて, 中国地方以西の各地におけるツル類の渡来状態に関する多くの情報が得られた。鹿児島県出水地方ならびに山口県熊毛地方で越冬するツル類の渡りの経路上にあると想像される地域の情報は重要なものである。特

に、これまでほとんど知られていなかった長崎県壱岐におけるツル類の記録や記録の少なかった対馬における記録は今後の調査結果と併せて、ツル類の渡りの考察に役立つにちがいない。

文 献

千羽晋示・安部直哉，1986．ツル類の渡来状況アンケート調査にご協力ありがとうございました．私たちの自然，299：18—19．（日本鳥類保護連盟）